

2000.12.6-9 IN SEOUL

貧困と失業克服のための 国際フォーラム

昨年12月、ソウルにある聖公会大学(Sung-Kong-Hoe University)で「貧困と失業克服のための国際フォーラム 自活事業活性化と社会的仕事創出」が開催された（写真は大学と国際フォーラムの看板）。日本からは研究所の菅野正純主任研究員、日本労協連の永戸祐三理事長、富田孝好事務局長、岡安喜三郎氏が参加。イギリスからは日本労協連でも招待したことがあるチャーリー カッテル氏、その外フランス、イタリアの代表も参加している。ここでは韓国の二つの実践事例と研究者の報告を掲載した。イギリスのカッテル氏からは短い感想が寄せられた。

12月6日(水)	13:30 ~ 15:30
17:00 ~ 19:00 開会式、基調講演	主要討論 1 貧困と失業克服の提案および社会的仕事創出の意味と展望
19:00 ~ 21:00 歓迎レセプション	
12月7日(木)	15:50 ~ 17:50
09:30 ~ 12:30 イタリア事例発表、イギリス事例発表	主題討論 2 社会的仕事創出の財源
12:30 ~ 13:30 昼食	18:50 ~ 20:00 夕食
13:30 ~ 17:00 フランス事例発表、日本事例発表	20:00 ~ 文化行事
18:00 ~ 夕食	12月9日(土)
12月8日(金)	09:00 ~ 11:00
09:30 ~ 12:00 韓国の事例発表、弁当生産協同組合、残飯再利用、介護	主題討論 3 社会的仕事の特性と原理
12:00 ~ 13:30 昼食	11:20 ~ 13:20
	主題討論 4 社会的仕事創出の為の法整備と制度改善方案
	13:30 ~ 昼食・閉会

事例 1

ハンソツパ弁当生産協同組合

シン・ドンウ（ハンソツパ弁当生産協同組合運営委員長）

1. 事業の背景

- ・1994年、鐘路区、母岳洞の山の頂上にある貧しい町の再開発が始められた。94年の初めから「借家人対策委員会」の組織化を開始し、11月に100余りの世帯の住民組織を結成。
- ・強制撤去反対と住民共同体の町の建設要求闘争。
- ・協同組合及び住民共同体に対する教育を10回余り実施。
- ・96年10月、67世帯仮移住団地入居。母岳町建設 約50坪 / 共同作業場・コンピューター住民教室・青少年休憩場・勉強部屋・など福祉施設を含む。
- ・97年12月から「ハンソツパ」準備会と市場調査を行い、98年4月から生産を始めた。

2. 「ハンソツパ」の創立と試練

(1) 目的

同等な権利と義務を持つ自発的労働者生産共同体で、経済的な困難を自ら克服し、社会的地位向上を図りながら模範的な共同体の町を建設して行く。雇用創出事業を通じた地域社会安定網構築への一助。

(2) 内容

- ・母親の味を味わえる家庭料理風の弁当を生産
- ・調味料、インスタント食品などの使用を減らしながら美味しくて栄養ある食

を追求

- ・使い捨て容器の使用を根絶して、深刻な環境汚染問題を解決
- ・飲食物ごみの資源化
- ・欠食児童及び貧しい人たちのための
- ・食物提供

(3) 創立資金及び組合参加者

- ・借家人対策委任員を中心とした、22人の組合員が200万ウォンずつ出資し、合計440万ウォン。それにミョンレバン協同組合に出資したお金と1200万円の借入金で最初の資金。
- ・生産施設、中古車両1台、重箱の弁当入れ300個、生産に必要な機器資材などを購入したので、当初の運営に余裕資金などはなかった。(22人の出資者は、常勤組合員8人と参加委員会14人とに分かれる。)

(4) 事業進行

弁当の商品としての質(家庭食・韓定食、使い捨て容器の根絶、調味料節約)が認められ、市民社会団体を主な顧客とし、着実に売上が伸びている。団体研修や教育を中心に、出張料理と並行しながら生産している。

問題点の噴出

- ・固定得意先確保の失敗
- ・運営資金の不足(生産参加者の収入の不安定による葛藤)
- ・生産施設不備による競争力の弱体化

(3) 課題

- ・生産施設 25坪の現場作業が狭く生産活動に支障が生じ、競争力弱化
- ・固定得意先確保 売上が安定せず、資金運営に蹉跌
- ・劣悪な資本
- ・生産組合員の増加や給料の安定化 1人が多くの役を担い、日常生活な業務過多と低賃金で家庭生活が不安
- ・専門労働力の開発 調理士、栄養士、企画、経営

化、生産労働者追加雇用、作業場安定、多様な商品開発、サービス改善

- (4) 定着期：2002年1月から
損益分岐点到達、負債を返しはじめる、第2の生産協同組合準備
- (5) 第2の協同組合創立：2002年
地域住民自活基金造成事業、近隣弘済洞賃貸アパート500余世帯・見底洞賃貸アパート300余世帯・母岳洞賃貸アパート500余世帯入居予定者をつなぐ第2第3の協同組合建設

4 .ハンソッパの長期的な展望と推進計画

- (1) 試験期：98年4月から
- (2) 再創立期：99年9月から2000年12月まで
生産施設補充、劣悪な資本克服方法の模索、事業安定化資金確保
- (3) 跳躍期：2001年1月から2001年12月まで
生産参加者の給料安定化、生産施設安定

5 .今までハンソッパを通じて住民達は以下のことを感じている。

- 1 住民自らできるという自信
- 2 住民の企業だという自負心
- 3 反面今まで苦しかったので、これからやってみようという不安